

第8回 内閣府 国際平和協力本部事務局 主催

国際平和協力 シンポジウム

国連PKOをめぐる現在の方向性と課題

国際平和協力研究員・専門家からの報告

*Symposium on International Peace Cooperation
"Prospects and Challenges of UN Peacekeeping Operations:
Reports from International Peace Cooperation Programme Advisors and Experts"*



参加費無料・事前申込制（申込方法は裏面ご参照）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟 1階
国際会議室

平成31年（2019年）

2月26日（火） 13:30-18:30

- 13:30 - 13:40 開会挨拶 内閣府 国際平和協力本部事務局長 岩井 文男
13:40 - 14:30 西村 正二郎 研究員『アメリカ・トランプ政権の2年間と国連・安保理・PKO』
14:30 - 15:20 今井 ひなた 研究員『国連とアフリカ連合：平和維持活動における「戦略的連携」の進展と課題』
15:20 - 15:30 休憩
15:30 - 16:20 菅原 雄一 研究員『国連平和維持活動の有効性に関する実証的政策評価の現在』
16:20 - 17:20 ローガン・バーロウ大尉『米軍平和活動原則と日米同盟』（米空軍・マンスフィールドフェロー）
17:20 - 17:30 休憩
17:30 - 17:45 新井信裕 二等陸佐『南スーダンPKOへ参加して』（陸上自衛隊 元UNMISS司令部要員）
17:45 - 18:30 自由討論
18:30 閉会

内閣府 国際平和協力研究員



西村 正二郎

米国アメリカン大学修士課程（国際平和・紛争解決）修了、東京外国語大学（英語専攻）卒業。国連南スーダン・ミッション（UNMISS）にて情報分析官及び国連アフガニスタン支援ミッション（UNAMA）にて政務官・特別補佐官として勤務。外務省にて、緊急・人道支援課、在南スーダン大使館、アフリカ第一課、国連政策課及び国連代表部にて勤務。安保理及び現地ミッションを中心とする国連による紛争への対応等に関する業務に従事。2017年4月より現職。

発表要旨

2017年1月に誕生したアメリカ・トランプ政権。その外交活動は歴代の政権と比べても非常にユニークです。過去2年間で、アメリカは多国間外交のあり方に様々な影響を及ぼしてきましたが、国連もその例外ではありません。この発表では、国連の平和・安全分野で重要な位置にある安全保障理事会とPKOを焦点にして、トランプ政権の成立によって何が変わって何が変わらなかったのか、2年間で総括的に評価した上で今後の展開や見通しを分析します。



今井 ひなた

日本女子大学人間社会学部現代社会学科卒、東京外国語大学紛争予防・平和構築専攻修士課程修了、同大学博士後期課程在籍中。カンボジア及びスリランカの国際選挙監視活動にNGO事務局長として政治分析、プロジェクト評価業務に従事。国際移住機関（IOM）ルワンダ事務所では国境管理、労働移住管理等に携わり、その後、広島平和構築人材育成センター（HPC）にて研修運営・調整担当として勤務。2017年5月より国際平和協力研究員として勤務。

発表要旨

地域機構の即応能力や対テロ活動における役割が着目される中、より効果的・効率的な平和活動を展開する上で、地域機構・国連間の連携体制の制度化が進められています。本発表では、アフリカ連合及び準地域機構が主導した平和活動の中でも 1)地域機構が即応展開した後に国連に移譲する事例（国連移譲型）、2)地域機構による限定的な軍事介入に並行し、国連が政治交渉を進める事例（強制外交型）に焦点をあて、戦略的連携の進展及び課題を分析します。



菅原 雄一

早稲田大学政治経済学部卒、英国ブラッドフォード大学修士課程（紛争解決学）修了、早稲田大学政治学研究科修士課程修了。外務省国際協力局にて経済協力専門員（ルワンダ・ブルンジ担当）、在スーダン日本大使館にて専門調査員として勤務。その後、国連南スーダンミッション（UNMISS）の情報分析官として、同国西エクアトリア地方の政治・治安に係る情勢分析とオペレーション調整に従事。2018年4月より現職。

発表要旨

証拠（エビデンス）に基づく政策形成の重要性が認知され、国際関係論分野への計量分析手法の応用も広がる中、国連PKOの有効性を量的に推定するための取り組みが国際的に加速しています。本発表では、社会科学における計量分析手法を用いて実証的に国連PKOを分析することの可能性と限界を議論した上で、これまでに発表された有意性の高い解析結果に依拠しつつ、「メタ分析」的視点から分析の統合を試みます。



ローガン・バーロウ大尉

米空軍・マンズフィールドフェロー

米国空軍士官学校卒（法学専攻、哲学・日本語副専攻）、アメリカ軍事大学修士課程（国際関係・紛争解決）修了。米空軍にて小隊長、KC-135空中給油機の機長等として勤務し、飛行時間は2000時間を超える（その内750時間は中東の紛争地にて操縦）。現在は、日米の政府間協力の促進のために設立されたマンズフィールド財団のフェロープログラムに所属。



新井 信裕 二等陸佐

陸上自衛隊 元UNMISS司令部要員

防衛大学校土木工学科卒業後、第4施設大隊（長崎県）にて施設中隊長、施設学校（茨城県）において教官として勤務。その後、国連南スーダンミッション（UNMISS）司令部において施設幕僚として、計画・調整業務に従事。陸上幕僚監部運用支援課、陸上自衛隊川内駐屯地第8施設大隊長兼ねて川内駐屯地司令を経て、2018年3月より教育訓練研究本部勤務。

申込方法

2月24日（日）受付締切

参加ご希望の方は下記メールフォームから、氏名・ふりがな・メールアドレスを入力の上、タイトルを「第8回国際平和協力シンポジウム参加申込」として、ご所属・電話番号を本文に記入しお申込みください。本イベントは途中入退場可です。※定員超過の場合はお断りする場合がありますのでご了承ください。

メールフォーム：<https://form.cao.go.jp/pko/opinion-0001.html>

お問い合わせ